

主な活動実績写真1. H24年度事業日時一覧8. 11月21日(水)阿志岐小学校5年環境教育①

日時	参加者	天候	活動内容
11・21(水) 8:30~ 12:30	40人(児童33人)(講師5人) (教師1人)(天山ふれあい会1人)	晴れ	「環境教育 現地学習」

1. 講師：森林インストラクター会

専門分野	氏名	性別	住所
植物全般	溝口 澄子	女	筑紫野市天山在住
森林・林業と歴史	木村 英佳	男	春日市在住
自然観察と野外の遊び	佐藤 政男	男	春日市在住
植物と植物を利用したクラフト	戸町 チヅル	女	春日市在住
自然観察と鳥の観察	廣 伸俊	男	太宰府市在住

2. 阿志岐小学校では、朝の会の時に「読み聞かせ」の時間があるので、出発時間が9時近くになりました。まず、宝満川の右岸を下りました。

●宝満川の土手に着くとすぐ、子供たちの質問攻めでなかなか前に進みませんでした。



●天山ふれあい会が準備した地図入りの「観察野帳」に熱心に書き込む子供たち。



●この日は、ポカポカ陽気で、宝満川には、水鳥がえさを「ついばみ」に来ていました。写真には載せられませんが、シラサギの仲間『ダイサギ』『コサギ』、『ハクセキレイ』めったに見ることができない『カワセミ』、下川原橋のところには『バン』(黒っぽい体くちばしが赤い)や近所の方が放し飼いでかっている『白鳥』などをみることができました。川の魚たちもたくさん泳いでいましたが、おおきな『ナマズ』が泳いでいるのを、初めて見たと言う子供もいました。現地学習はいいね!!

●高木神社で大クスの幹回りを3人で、約3m。直径を計算できたかな！

●「イヌシデの広場」森のめぐみを学習  
木村先生のお話を真剣に聞く子どもたち



●班別に童男少女岩上で記念写真

●1班

●2班

●3班



●4班

●5班



●初めはしり込みした女 子も勇気を出して登りました。

怪我もなく3時間半歩きました。無事学校に帰着しての給食は、おいしかったと思います。

●一人ひとりの学習意欲 に先生方も感心しておられました。そして、感想を寄せてもらい。有難う

●森 美羽 今日、1時間目から4時間目まで、いろいろな植物や鳥の名前とか やさしく教えてくれてありがとうございます。最初、『スイバ』や『ジュズダマ』や『カワセミ』など、今まで知らなかった物をたくさん見ることができました。食べれる『スイバ』や『フユイチゴ』 y 『イヌマキ』の実の青い部分はどくがあるから食べちゃダメ、など教えてくれて楽しかったです。森の話はとても勉強になりました。草の中に入って、ピリピリからい葉を『かじってごらん』と言ってくれました。葉っぱはからいのでおどろきました。今日は本当にありがとうございました。

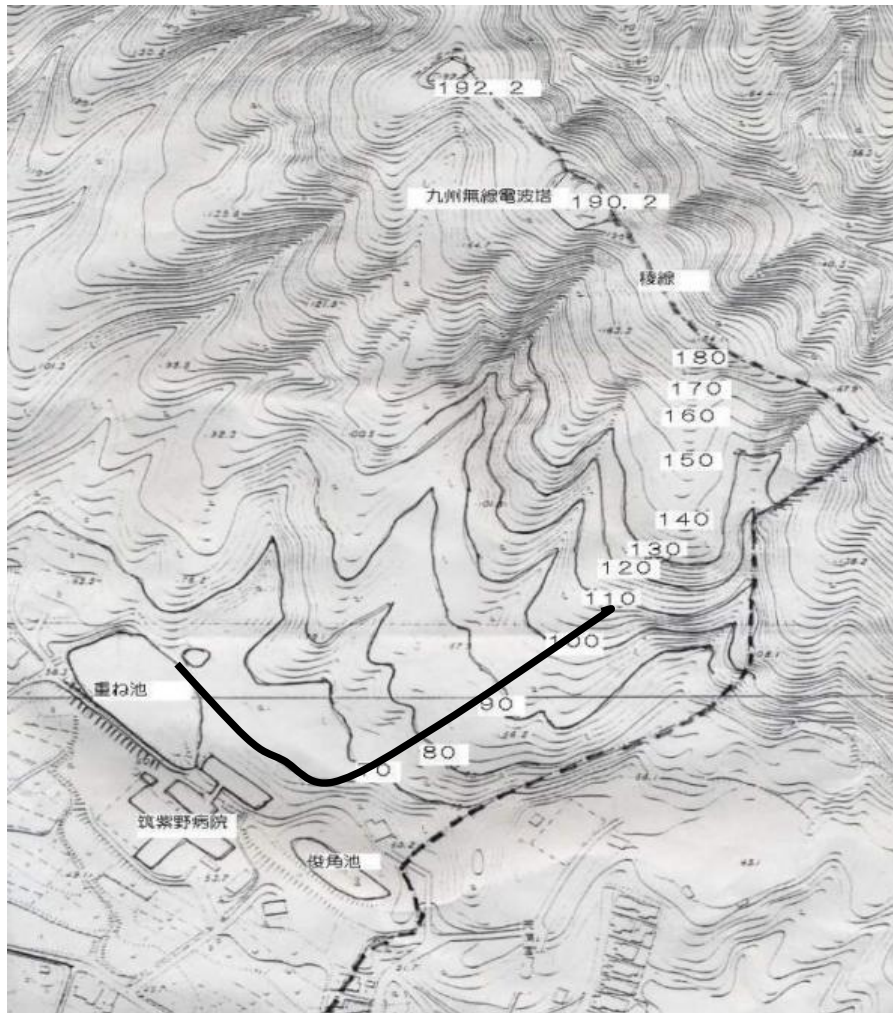
●平山 すみ 私は自然観察をして80種以上教えていただきました。ほんとうにありがとうございました。それから、食べられる草、花、それから毒のある実などの事をたくさん教えてもらい、一番心に残ったのは、かめば、舌がヒリヒリする『イヌタデ』や、すっぱい「フユイチゴ」が一番心に残りました。そのわけは、初めて見て食べたりするものだったからです。『イヌタデ』は辛いのが印象に残りました。『フユイチゴ』は口の中で『プチッ』となるのが印象に残りました。 今日を合わせて2回目だけど、1回目の時よりほかの花や実や草などが見れたので、良かったです。また、6年生になって夏に自然観察に行きたいです。

主な活動実績写真2. H23年度事業日時一覧9. 11月25日(日) 森林組合との共同作業①

日時	参加者	天候	活動内容
11・25(日)	純然たる天山ふれあい会員10人と 森林組員28人で、総勢38人	晴れ	筑紫野病院から宮地岳稜線にいたる山道の一部の切り開き

◆11月25日(日) 森林組合との協働作業。雨で延び延びになっていた協働作業がやっと出来ました。参加者を4班に分けて、チェーンソー1台ずつ、女竹が多いところには、草刈り機を配置しました。天山ふれあい会員は高齢者が多いため、主に斜面を登らない重ね池大・小の間の土手のところを作業をしました。天山ふれあい会は、高木神社——童男少女岩——蘆城城跡——九州無線電波塔——重ね池の巡回山道を開く目的と森林管理組合は境界線確定の幅2mを作ることで目的が一致したという作業でした。

●作業場所概略図 凡例：  今回の作業範囲  
幅約2m～4mの切り開き



●集合して、森林管理組合実行委員長高山純一さん、天山ふれあい会会長藤野貫治さんのあいさつに続いて、恒例のラジオ体操、作業の注意、作業班の割り振りをしました。全員ヘルメットをかぶり、安全対策をしました。



●1班の天山ふれあい会は重ね池大・小の池の間の土手の整備



●市補助金で購入したエンジンソー  
マキタエンジンソーME A 3500 L



● 2班：覆い茂った女竹に苦勞する草刈り機



に  
こ  
地  
と分かった人も多いの  
ではないかと思いまし  
た。 自分の宅地では  
ありませんが、組合の  
所有地ですから、組合  
員一人ひとりの所有地  
ということを知って  
もらってよかった。



● 和やかな雰囲気での休憩



日時	参加者	天候	活動内容
12月9日(日) 8:30~ 12:00	7人	晴れ	高木神社を〇基点として童男狝女岩までの距離と標高を表した道案内版の設置 高木神社から約150mおきに5枚設置

●市助成金で作成した看板 ①道標看板 ②高木神社を〇基点として童男狝女岩までの距離・標高の道案内版



●11月5日(月) 補助事業の道標看板の取り付け



●11月11日(日) 高木神社から童男狝女岩までの距離を150m区切りで計って、道案内版を立てる下準備作業



●12月9日(日) 距離と標高を表した道案内版の設置、高木神社から約150mおきに5枚設置



●看板の準備と説明



●高齢ですが、看板取り付けのピスを打ち込む大坪さん



主な活動実績写真4-1. H24年度事業日時一覧12

2月10日(日) 地域環境整備1 多目的広場堤土手に桜等をを植樹①

日時	参加者	天候	活動内容
2月10日(日) 8:30~ 12:00	16人(筑紫保健所地域環境課員沼さん、福岡森林インストラクター会から溝口さん参加を含む)	晴れ	桜の木、ほか樹木の植樹

- 市補助金で購入した植樹の木、肥料、竹支柱等
- イロハモミジ 5本
  - シユロ縄 1束
  - 吉野桜 4本
  - 陽光桜 2本
  - 平戸つつじ 10本
  - アジサイ 10本
  - ガクアジサイ 10本
  - 竹支柱 33本
  - 肥料 3袋



●植樹の前の会長挨拶



●多目的広場での植樹



主な活動実績写真4-2. H23年度事業日時一覧12-2.

2月10日(日) 地域環境整備4 檀徒池上から童男卯女岩に至る山道にアジサイ植樹

日時	参加者	天候	活動内容
2・10日(日) 12:00~ 13:30	8人(	晴れ	

●檀徒池上から童男卯女岩に至る山道にアジサイ植樹 地味な仕事です。



●福岡森林インストラクター会の溝口さんは、自宅のアジサイを分けて持ってこられました。



●筑紫保健所地域環境課員沼さんが、ボランティア活動の実際を体験したいということで参加されました。



●昨年雑木伐採をした童男卯女岩下の急斜面に桜2本、モミジ2本を植える。



●アジサイ、桜、紅葉植樹には8人



調査日: 2013年(平成25年) 3月7日

調査場所: 筑紫野市宮地岳南部天山コース(別紙地図参照)

調査コース: 天山公民館-芋が谷池-高木神社-檀徒池-童男艸女岩-259m分岐(阿志岐城跡)

一. 反射板-二タ山頂-峰古野池-天山公民館

調査時間: 8:45~12:45

野鳥確認種: カワウ、アオサギ、カルガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、トビ、キジバト、コゲラ、ツバメ(今期初認)、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス(囀り初認)、キクイタダキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ソウシチョウ、カワラバト(合計31種) 別に参考記録コルリ1種。

- 特記事項: 1. スタート地点の天山公民館の畑では、ズイーという細かい声でビンズイが鳴いていました。(この種は筑紫野市環境調査で、宮地岳では初記録です。)
2. 宮地岳南部山麓の天山集落付近では、いつも聞かれる小禽類の声は少なく感じました。この日天候は晴れですが、黄砂やスギ花粉等のせいか視界は薄汚れて見えます。朝9時で気温14度。南西の風で昼間は20度の予報。ハシブトガラスが小枝を運ぶ(巣材運び)が観られました。
3. 芋が谷池では、今回まったく鳥影を観ませんでした。
4. 童男艸女岩へのスギヒノキと広葉樹の混交林では、コルリと思われる囀りがありましたが、1度きりではっきりしないため参考記録とします。まだ葉をつけていない樹林の梢付近でウソが確認されました。ヤマガラのさえずりを聞いていると、低灌木にソウシチョウが移動していきました。ルリビタキは声のみでした。
5. 二タのグラウンド周辺では、ウグイスの囀りが今期初認されました。他にイカルの囀り、シロハラ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、ソウシチョウの囀りなど。
6. 峰古野池では、カモ類ではカルガモ 7、ハシビロガモ 2(この種は筑紫野市環境調査で、宮地岳初記録) キンクロハジロ 1、カワウ、アオサギが確認されました。
7. 境界石を過ぎ集落に入ったところで、ツバメ 1を今期初認しました。



ビンズイ



ウソ♂



ツバメ♂



ハシビロガモ



ウグイス



環境指標の森: 宮地嶽の森

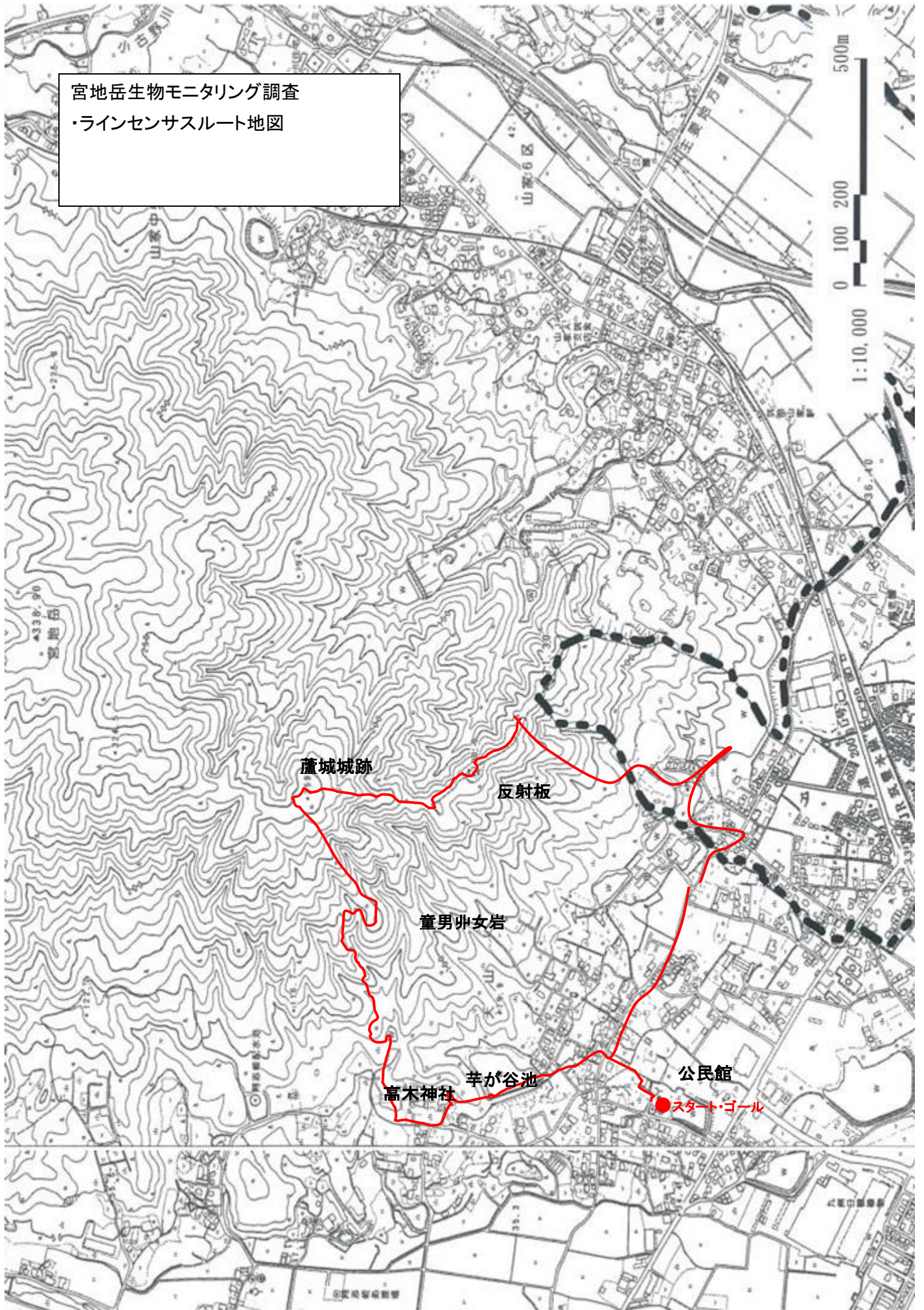
野鳥生息調査リスト

作成: 野鳥調査担当 山本 謙

No	科	種	H 23 年 環境指標の森 調査日 2010.05.08 / 2010.06.30 / 2010.07.17	環境省 ROL / ROM	国定公園 ROL / ROM	外来生物法	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年
							1月10日 10:10 -10:20	5月13日 20:00すぎ	11月20日 12:50 -13:20	1月9日 10:25 -11:10	1月9日 11:27 -12:10	1月27日 09:40 -11:25	2月10日 8:15 -12:40	3月7日 8:45 -12:45
1	アイソプシ	アイソプシ		○	○		1			2				
2	ウ	ウ		○	○					1				1
3	ササ	ダイササ		○	○		1			1		2		
4	アサ	アサ		○	○			1	1	2			1	2
5	カ	キツバ		○	○	DD	NT							
6		マカ		○	○			2	2				5	
7		カガ		○	○				4	2	11		11	7
8		コガ		○	○									
9		トキ		○	○	VU	VU							
10		シ		○	○									
11		シ		○	○									
12		シ		○	○									
13		ハシ		○	○									
14		ハシ		○	○									
15		ハシ		○	○									
16	タ	エ		○	○	NT		1		1				1
17		ト		○	○									1
18		ハイ		○	○	NT								
19		ノ		○	○	NT								
20	ハヤ	ハヤ		○	○	VU	VU							
21		チ		○	○									
22	シ	シ		○	○									
23	シ	シ		○	○									
24	ハ	ハ		○	○			1	2		1+	2+	1+	1+
25	カ	カ		○	○									
26	カ	カ		○	○									
27	カ	カ		○	○									
28	ソ	ソ		○	○									
29		ソ		○	○									
30	セ	セ		○	○			1						
31		セ		○	○			1						1
32		セ		○	○			1						1
33	ヒ	ヒ		○	○			2+						1
34	キ	キ		○	○		1			1		11+	12+	12+
35	キ	キ		○	○									
36	キ	キ		○	○			1						
37	シ	シ		○	○									
38	シ	シ		○	○									
39	シ	シ		○	○									
40	シ	シ		○	○									
41	ウ	ウ		○	○									
42		ウ		○	○									
43	セ	セ		○	○									
44	エ	エ		○	○	NT								
45	シ	シ		○	○			1						
46	シ	シ		○	○									
47	シ	シ		○	○		2		2					
48	シ	シ		○	○									
49		シ		○	○									
50		シ		○	○									
51		シ		○	○									
52		シ		○	○									
53	ア	ア		○	○		2							
54		ア		○	○									
55		ア		○	○									
56	ハ	ハ		○	○									
57	ム	ム		○	○									
58	カ	カ		○	○									
59	ハ	ハ		○	○									
60	ハ	ハ		○	○			4		10	5	5	7+	7+
61	カ	カ		○	○									
62	ハ	ハ		○	○									
63	ハ	ハ		○	○									
		計					2種	1種	12種	8種	14種	12種	21種	21種

野鳥調査担当	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子	山本謙 山本伸典子		
同行者(その他調査担当)		清口直子	清口直子	清口直子		山本伸典子 5年生野鳥班 2名+山中先生	奥野全 清口直子 戸部サトル 井上地生 佐野さん	奥野全 清口直子 戸部サトル 井上地生	
		日本野鳥の会 福岡カンパニー	情報提供	奥山ふれあい の主催	日本野鳥の会 福岡カンパニー	日本野鳥の会 福岡カンパニー	筑紫野鳥会 の調査	奥山ふれあい の主催	奥山ふれあい の主催
環境省および国定公園の ROL/ROM 区分	絶滅 EXEW	絶滅危惧II類 VU	環境省 特定外来生物 ●						
	絶滅危惧IA類 CR	準絶滅危惧 NT							
	絶滅危惧IB類 BI	情報不足 DD							

宮地岳生物モニタリング調査  
・ラインセンサスルート地図



1. 天山公民館 ~高木神社

オオカグマ ベニシダ フモトシダ ホラシノブ ミゾシダ トラノオシダ  
ノキシノブ オオイタチシダ



2. ホシダ ヤマイタチシダ オオイタチシダ トラノオシダ イノモトソウ オオカナワラビ  
ナガバノイタチシダ ヘラシダ ベニシダ ホシダ ノキシノブ ヤマヤブソテツ コシダ  
ハカタシダ フイリハカタシダ フモトシダ (群生) ヤマイヌワラビ キジノオシダ イノデ  
オニカナワラビ ミヤマノコギリシダ イワガネソウ ヒトツバ マメヅタ シシガシラ



3. 童男少女岩~反射板

ワラビ (冬枯れ) ウラジロ

4. 反射板~二タ山頂

ウラジロ (群生) コシダ (群生)

5. 二タ山頂~下り~天山公民館

コシダ (群生)

オオカグマ ベニシダ ノキシノブ ベニシダ フモトシダ ホラシノブ ミヤマノコギリシダ



◆全体的に一般的なシダがほとんどでした。交配して雑種を作っている様子もみられませんでした。コースをかえて湿気の多い谷沿いなどを調査すると、また違った植生がみられると思います。人里近くにみられる(山道に迷ったときに人里に近いという指標になる)

コシダやウラジロの群生が多くみられましたが、乾燥した尾根筋では植生はほとんどない状態でした。里山の下層植生のシダとして特別に列記するものではありませんでしたが、高木神社からの登りの山道は幅広く調査をしてみることもよいかと思いました。

調査場所

高木神社～檀徒池

池～童男男女岩

岩～尾根道合流点

尾根～二ヶ山

① 高木神社境内から檀徒池周辺まで。

神社境内は神域として保存されている大木や植栽された低木が多く、神社裏から池に上がる山道沿いは、ツブラジイの大木がありますがモウソウチクがかなり勢力を広げています。

記録した植物

ヤブツバキ (ツバキ科)      イヌビワ (クワ科)      イヌマキ (マキ科)      ヒノキ (ヒノキ科)  
 シュロ (ヤシ科)      カキノキ (カキノキ科)      クスノキ (クスノキ科)      タブノキ (クスノキ科)  
 サカキ (ツバキ科)      クログネモチ (モチノキ科)      キリ (ゴマノハグサ科)      イロハモミジ (カエデ科)  
 ウラジログシ (ブナ科)      ヒサカキ (ツバキ科)      カラタチバナ (ヤブコウジ科)  
 ツブラジイ (ブナ科)      クチナシ (アカネ科)      アリドオシ (アカネ科)      クロキ (ハイノキ科)  
 アラカシ (ブナ科)      シロダモ (クスノキ科)      ハゼノキ (ウルシ科)      ノイバラ (バラ科)  
 フユイチゴ (バラ科)      ムベ (アケビ科)      コ克蘭 (ラン科)      コガクウツギ (ユキノシタ科)



② 檀徒池から童男男女岩まで。

ヒノキの植林地であったところが、手入れがされずに広葉樹との混交林となっていました。最近、間伐などの手入れをされて、森の中が明るくなりコシアブラやカクレミノ、イヌマキなどの幼木がたくさん育ち始めています。草本類もふえはじめました。

記録した植物

アオナラガシワ (ブナ科)      ハゼノキ (ウルシ科)      シリブカガシ (ブナ科)      カクレミノ (ウコギ科)  
 ヒメユズリハ (ユズリハ科)      イヌマキ (マキ科)      クロキ (ハイノキ科)      ツルグミ (グミ科)  
 ナンテン (メギ科)      イヌシデ (カバノキ科)      コナラ (ブナ科)      ヒノキ (ヒノキ科)      クリ (ブナ科)  
 マンリョウ (ヤブコウジ科)      イズセンリョウ (ヤブコウジ科)      ネズミモチ (モクセイ科)  
 シロダモ (クスノキ科)      ヤブムラサキ (クマツヅラ科)      コガクウツギ (ユキノシタ科)      アリドオシ (アカネ科)  
 コシアブラ (ウコギ科)      シャシャンボ (ツツジ科)      ヤマモモ (ヤマモモ科)  
 ヒサカキ (ツバキ科)      ビロードイチゴ (バラ科)      カラタチバナ (ヤブコウジ科)      ウリハダカエデ (カエデ科)  
 ヤマフジ (マメ科)      ヤブラン (ユリ科)      ナガバジャノヒゲ (ユリ科)      コ克蘭



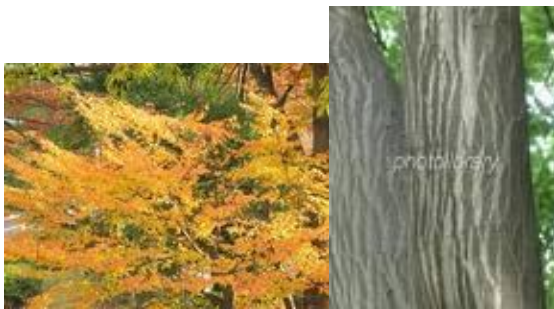
③ 童男卯女岩から尾根道との合流点まで

童男卯女岩の周りは、サクラやカエデなど植栽されているものがあります。また周辺の木が伐採されて、その跡地にいわゆるパイオニアプランツと言われるアカメガシワ、カラスザンショウ、ゴンズイなどがたくさん育っています。

記録した植物

コナラ (ブナ科)      イヌシデ (カバノキ科)      ヒノキ (ヒノキ科)      アオハダ (モチノキ科)  
 ムベ (アケビ科)      クスノキ (クスノキ科)      カラスザンショウ (ミカン科)      シロダモ (クスノキ科)  
 ヒサカキ (ツバキ科)      ネジキ (ツツジ科)      ユズリハ (ユズリハ科)      シャシャンボ (ツツジ科)  
 クロガネモチ (モチノキ科)      ヤブコウジ (ヤブコウジ科)      カクレミノ (ウコギ科)  
 クロキ (ハイノキ科)      ヤマモモ (ヤマモモ科)      ヤマザクラ (バラ科)      リョウブ (リョウブ科)  
 シリブカガシ (ブナ科)      マルバアオダモ (モクセイ科)      ヤマツツジ (ツツジ科)  
 ヤマモガシ (ヤマモガシ科)      タブノキ (クスノキ科)      ヤマボウシ (ミズキ科)  
 エゴノキ (エゴノキ科)      ゴンズイ (ミツバウツギ科)

イヌシデ：童男卯女岩奥の「イヌシデの広場」      大木      リョウブ (床柱になる固い木)



シャシャンボ (方言: ミソッチョ)



④ 合流地点から尾根道を二タ山まで

尾根歩きを楽しめるルートで、落葉樹のコナラやアオハダの大木、照葉樹のクスノキ、シロダモ等の自然林の様相です。乾燥した林地なので草本類はほとんどありません。

記録した植物

シロダモ (クスノキ科)      クロキ (ハイノキ科)      ヒサカキ (ツバキ科)      コナラ (ブナ科)  
 シリブカガシ (ブナ科)      カクレミノ (ウコギ科)      アオハダ (モチノキ科)      コシアブラ (ウコギ科)  
 ヤマモモ (ヤマモモ科)      ヒノキ (ヒノキ科)      ネジキ (ツツジ科)      ヤマヤナギ (ヤナギ科)  
 クリ (ブナ科)      エゴノキ (エゴノキ科)      ゴンズイ (ミツバウツギ科)      ネズミモチ (モクセイ科)  
 シャシャンボ (ツツジ科)      モチノキ (モチノキ科)      ソヨゴ (モチノキ科)      クロバイ (ハイノキ科)  
 ナナメノキ (モチノキ科)      サルトリイバラ (ユリ科)      ヤマボウシ (ミズキ科)      カラスザンショウ (ミカン科)  
 アカメガシワ (トウダイグサ科)      ビロードイチゴ (バラ科)      オオバヤシャブシ (カボの木科)

シロダミ

エゴノキ (庭木になる)

ヤマボウシ

オオバヤシャブシ

(森では一番早い雄花が咲く)



天山公民館から鳥類のラインセンサスルートに合わせて観察を開始した。しばらく歩いて、1月にキツネ生息の情報が得られた芋が谷池でその痕跡を探った。この北側沿岸で2013年1月12日に自然観察指導員の松永紀代子さんが数枚の写真とともにホンドキツネの生息で、裏山付近を探索したところ姿は確認できなかった息していると思われる巣穴を発見した。この巣穴はア



中型の哺乳類が生息している  
松永紀代子さんによる写真

この池の前の畑地のあぜ



を確認しているのが、その斜面に生ナグマやテンなどと思われる。

道付近で昨年同様

にコウベモグラの坑道とモグラ塚を数多く発見した。この畑に隣接した草地でスキの葉を細かく咲いてつくったカヤネズミの球巣らしきものが拾われたが中に球形の空間がないのでセッカの巣の可能性も捨てきれない。昨年同様にネズミ類の掘った穴の入り口(坑道の出口)が見られたが、これらの巣穴はハツカネズミまたはカヤネズミの住み家の入り口ではないかと思われる。



またアナグマのものと思われる地中の虫を探った痕(スニッフピット)が見られた。

高木神社境内ではムササビが残したクスの葉の食み痕が数枚発見された。この境内は確実にムササビの行動域になっていると思われる。

童男かん女岩のところまでの山道の両側には多数の巣穴が散見され、アカネズミ、ハツカネズミの住み家の入り口ではないかと思われる。この山林には他にヒミズ、ジネズミも生息していると思われる。また、高木神社から童男かん女岩までの途中の山道にはテンの糞と思われる



ものが数多く(6カ所)見る事ができた。また、鞘翅類昆虫の翅を含んだ直径2cmの糞を複数(2カ所)確認することができた。



童男かん女岩から、のろし台、阿志岐山城跡を経由して山頂付近までの山道では見つからなかったが、山頂付近を過ぎた1個所にタヌキの糞塊が見つかった。この地域のタヌキは昨年に比べて少し減少したかもしれない。



また、山頂までの山道でイノシシのものと思われる土耕跡とその中に2つの蹄がはっきり見られる足跡も見られた。昨年よりイノシシの活動が盛んになってきているのかもしれない。



イタチ(ホンDOIタチ)のものと思われる糞は見られなかったがテンの糞と似ており、見分けが付きにくいので見過ごしたかもしれない。

山頂付近からは筑前町(旧夜須町)の地域を通って山道を下った。この後、筑前町と筑紫野市の境界を通る池に行きカルガモやキンクロハジロ、カワウなどが確認できた。

冬季の調査で本年度も両生類とは虫類は冬眠中で確認できなかった。

#### 今回確認できた哺乳類

ホンドキツネ	<i>Vulpes vulpes japonica</i>
アナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>
コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>
ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>
テン	<i>Martes melampus</i>
ホンダタヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>
ニホンイノシシ	<i>Sus scrofa leucomystax</i>

#### ※井上元生感想：

1. 4人の先生方には詳しく報告書を書いていただきました。野鳥の会の山本さんによると「宮地岳生物モニタリング調査・ラインセンサスルートは変えることなく続けることです」と助言をいただきました。

#### 2. 驚きの発見

##### (1) 植物の溝口さんから

モチノキはクロガネモチとは違う。見分けできない？



ゴンズイ:材としては用途がないところから、同様に役に立たない魚とされる、「権瑞(ごんずい)」になぞらえた。

「狐の茶袋(きつねのちゃぶくろ)」実の形から。

「黒臭木(くろくさぎ)」臭気から。



カワウの尿酸で真っ白になった樹木  
鳥の尿酸で木が枯れる。

※南米チリのある肥料資源は、海鳥の死骸・糞・エサの魚・卵の殻などが長期間(数千年~数万年) 堆積して化石化したもの。

